©朝日新聞社 2007年

43474号（日刊）

2007年（平成19年）
4月24日
火曜日

朝日新聞

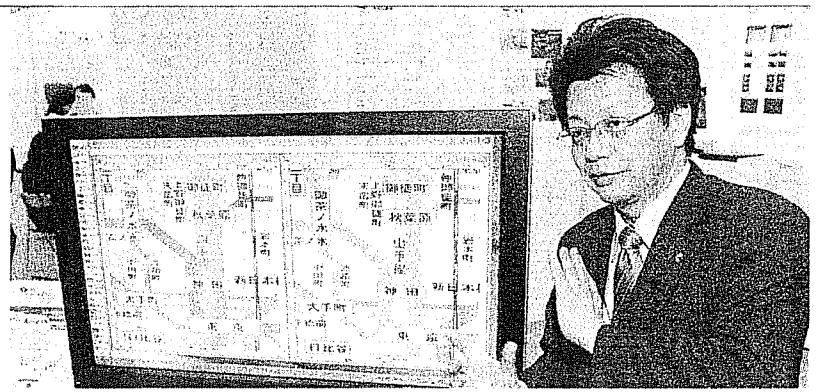
朝日新聞東京本社 発行所：〒104-8011東京都中央区築地5-3-2
電話：03-3545-0131 www.asahi.com

天気	6	9	12	15	18	21(時)		
東京						30	16	10
横浜						60	16	11
千葉						30	16	9
さいたま						30	16	9
札幌						0	16	5
仙台						10	15	4
名古屋						20	19	10
大阪						20	20	10
福岡						10	19	10

ひと

色弱のカラーコーディネーター

伊賀（いが） 公一（こういち） さん(51)



赤や緑が焦げ茶色に見える。強度の色弱というハンディを乗り越え、難関のカラーコーディネーター検定1級に合格。色の歴史や配色の理論を学び、試験では色を表す記号を頼りに答えた。

これを機に会社を辞め、今月からNPO法人「カラーユニバーサルデザイン機構」（CUDO、東京）の専従スタッフとして本格的に活動を始めた。企業や自治体から相談を受けて、商品や出版物の色使いを助言する。「色弱者は全国に300万人もいる。企業にとって『色覚のバリアフリー』はコストではなく新たな消費者を得るチャンス」だと言う。

徳島県出身。小学校の色覚検査で、友だちと違う数字を答え「アホになった」とからかわれた。その後も充電ランプが赤か緑かわからない。生焼けの肉を食べてしまう。日々少しずつ不便だが、あきらめていた。04年にCUDOに参加。精密検査を受け、自分の見え方の特徴を詳しく知った。さらに色彩の仕組みを勉強し「色の美しさを想像して、きれいだと感じられるようになりました」。

CUDOのコンサルティング業務はこの1年で約100件。色弱者の見え方を再現するディスプレーや見やすい地図など次々製品化されたが、自動車や携帯電話、教科書と対象は限りない。

色覚バリアフリーが当たり前になるまで問い続けるつもりだ。「その色、伝わりやすく表示されていますか」と。

文　見市紀世子
写真　福留　庸友